

地図帳学習における指導の工夫

～4学年の地図の見方・使い方を通して～

那覇市立石嶺小学校教諭 伊志嶺 和代

I テーマ設定の理由

急激な変化を遂げる現代社会においては、その変化に主体的に対応できる能力として「生きる力」の育成が強く求められている。それを受けて、社会科学学習も従来からの社会事象に対する知識・理解にとどまらず、「調べて考える」「学び方を学ぶ」方式へ転換し、その過程において情報活用能力の一つである地図帳活用はますます不可欠な項目になってきた。

「小学校学習指導要領 第2節社会」の「内容の取り扱い」においては、「各学年において、地図や統計資料などを効果的に活用し、次第に我が国の都道府県の構成について分かるようにすること」と明記されており、各学年における地図学習の一層の強化と工夫が求められている。

地図帳は、児童にとって社会生活の様子や地域の特色、自然環境との関わりを表している最も身近な資料であり、地勢に関わるさまざまな情報が豊富に盛り込まれた宝庫である。地図帳活用の方法を学ぶことにより、社会科学学習の求める学び方や調べ方の幅を広げることができる。また、地図帳活用は児童の今後の生活に有効に生かせる知識と技能であり、生活に深く関わってくる。

では、児童の地図帳活用能力の実態はどうだろう。教育課程実施状況調査によると、その結果から地図帳を有効に使えない児童の多いことが判明している。これまでの私の実践を振り返ってみると、社会科学学習における地図帳活用指導に対しての意識が低く、教材研究や指導方法も十分ではなかった。その結果、児童は地図帳に対して興味・関心はあるものの目的を持って活用することがほとんどなかった。

そこで、地図帳活用の基礎的・基本的な学習内容を定着させることが大切であると考えて。まず、教師自身が教科用図書としての地図帳であることを再確認し、教材研究を深め、地図帳活用を継続的に指導していきたい。系統立てた指導内容、何よりも児童が意欲的に地図帳学習に取り組める指導方法を工夫していくことで、基礎的・基本的な学習内容が定着するのではないかと考え、本テーマを設定した。

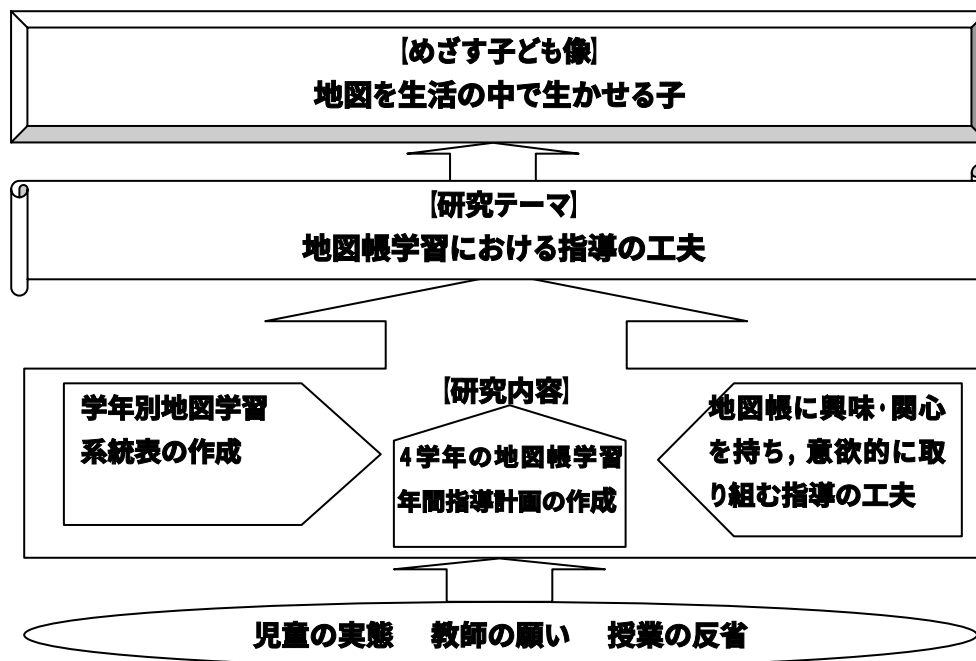
II 研究目標

4学年における地図の見方・使い方を通して、児童が興味・関心をもって意欲的に取り組める学習活動を展開する中で、地図帳活用の基礎的・基本的な学習内容を定着させていく指導の工夫について研究する。

III 研究方針

- 1 地図帳学習の各学年における基礎的・基本的事項の系統表を作成する。
- 2 地図帳を継続的に活用する4学年の社会科学学習年間指導計画の作成をする。
- 3 地図帳学習に興味・関心をもって意欲的に取り組む指導方法の工夫をする。

IV 研究構想図



V 研究内容と方法

1 小学校社会科学学習における地図帳学習の意義

(1) 主体的な学習を支える地図帳の役割

「小学校学習指導要領 第2節社会」の「内容の取り扱い」においては、「各学年において、地図や統計資料などを効果的に活用し、次第に我が国の都道府県の構成について分かるようにすること」と明記され、各学年における地図学習の一層の強化と工夫が求められている。地図帳は地勢に関わるさまざまな情報が豊富に盛り込まれた資料であり、社会科の問題解決学習の過程となる資料活用では、児童にとって一番身近な手引きとなる。同時に、地図帳活用とは、他から与えられる情報ではなく児童自身による能動的な働きかけによって必要な情報を得ていく学習活動であり、この活動が児童の主体性を育て、学び方や調べ方の幅を広げるといえる。また、社会事象は種々の条件から安易に現地の観察や調査ができるわけではない。確かな社会科学学習を成立させるには、やはり地図帳活用が不可欠となる。

さらに、児童は地図の学びを通して自分が住む地域の様子を詳しく知り、郷土への理解を深め、郷土に対する誇りや愛情を育てていく。そこから世界地図へと目を向けその地域の特色を知り、自分の住む地域を見つめ直すことで国際理解の精神を育むことへとつながっていく。すなわち、地図は児童の世界像の形成へも影響していくといえる。

このように地図帳学習は主体的な学習を支える役割を担っており、社会科学学習で身につけるべき基礎・基本の一つとなるものだと考える。

(2) 地図帳活用能力の実態（5学年）

本校5学年児童に地図帳活用能力の実態調査を行った。調査内容は、4学年段階での既習事項である八方位、縮尺、索引活用である。（36人調査）

地図帳 21, 22 ページを使って答えましょう。(ものさし用意)

1. 「熊本市」からみた「宮崎市」はどの方位にありますか。()
2. 「熊本市」から「大分市」までの距離は直線でどのくらいですか。()
3. 楽天イーグルスの本拠地「仙台市」を地図帳で探してみましょう。
探せたら地図帳に印をつけ、先生に見せましょう。(教師が確認をする)

調査結果

	回答人数	正答	誤答	無回答人数
八方位	20	6	14	16
縮尺	3	1	2	33
索引	16	7	9	0

図1 八方位、縮尺、索引活用の調査と結果

調査結果から下記の実態が浮き彫りになった。まず、「八方位」の正答人数は 36 人中 6 人で、30 人の児童が誤答または無回答であった。3 学年の既習事項である「四方位」さえ認識していない児童も多く、中には本来の「八方位」ではなく「上下左右」で答える児童もいた。

次に「縮尺」については、正答した児童はわずか 36 人中 1 人であった。ほとんどの児童が縮尺の概念を理解しておらず、33 人が無回答である。また、各自ものさしを準備させたのだが、使用する様子もなかった。誤答の 2 人は単位を換えることなく、そのまま cm で記述していた。さらに、調査結果以前に驚いたことがある。それは、多くの児童が地図帳自体を見ることに慣れておらず、使用するページを示したが、問題の基本となる「熊本市」を探すのに大変に時間を要したことである。

最後に「索引活用」である。ここでは、16 人の児童が地名を探すことができている。しかし、探索方法に関しては、地図帳活用の基礎的・基本的事項となる「索引活用ができた」児童はわずか 7 人で、その他 9 人は「北の方を中心に探した」と回答している。地名を探すことのできなかった残り 20 人の児童は、「地図帳の始めからめくっていった」「適当にページをめくっていった」と回答しており、索引活用の技能が身につけていないことが分かる。

このように地図帳活用能力については定着度が低いのだが、児童の地図帳に対する興味・関心は高い。活用能力実態調査と同時に行った地図帳に対する意識調査によると「地図帳を勉強するのは好きですか」との問いには、58%の児童が「好き」と回答しており、「学習で地図帳をもっと使いたいですか」には、61%が「使いたい」と答えている。このことから児童の地図帳に対する興味・関心を保持しながら、地図帳活用のための基礎的・基本的な力を身につけさせたい。

2 地図帳活用の基礎的・基本的事項を身につける学習活動の工夫

(1) 各学年における地図学習の系統表(表1)

地図帳活用の技能は放っておいて身につくものではなく、地図・地理に関する能力を児童の発達段階を踏まえた上で、計画的に指導していくことが必要不可欠となる。社会科の学習が始まる 3 学年になって初めて触れさせるのではなく、地図指導は生活科の探検学習单元などと関連させ低学年から始めていくことが重要であると思われる。

以下は各学年の発達段階に応じた地図指導の基礎的・基本的事項である。

表1 学年別地図学習系統表

基礎的・基本的事項				
	読図能力	描図能力	位置関係	地図記号・地名
低学年・生活科	・身近な場所の位置が分かる（校内の教室配置，学校と自宅の位置関係）	・学校や近所が絵地図でかける。	・簡単な道順を説明する（前後，左右，上下，遠近） ・物を縮小した表し方に気づく。	・絵による記号
3学年	・分布の密度一どこに多くどこに少ないか ・地形の模型で土地の高低が読みとれる。	・市（区・町・村）の略図や簡単な分布図がかかる。 ・絵地図から平面地図への移行ができる。	・四方位（上は北） ・方位と距離によって相対的な位置関係を知る。 ・簡単な縮尺を知る。	・簡単な地図記号の読み取りと活用
4学年	・地図帳が使える。 ・分布図から地域の特色をつかむ。 ・地図から自然と人間生活との関わりを読む	・県（都・道・府）の略地図や簡単な地形図，分布図がかかる。	・八方位 ・縮尺（簡単なものさしで距離を測る） ・等高線（高低の特色） ・県内における市の位置	・地図帳の記号 ・地図の凡例（色）から地域の特色を読みとる。 ・索引を使い，地図帳から自在に地名を探す。
5学年	・地図に描かれている要素をある程度理解し，自然・産業・交通などに着目し，総合的に地図を読む。	・各種の分布図の意味が分かり，簡単な分布図がかかる。	・国土の位置 ・緯度・経度の表し方 ・日本と関わりのある国の位置	・地図帳で使用されている主な地図記号 ・海流
6学年	・各種の分布図を目的に応じて活用できる。	・日本の略地図がかかる ・各種の簡単な分布図がかかる。	・世界地図や地球儀による方位と位置 ・縮尺の目盛りを使い，計算して距離を求める。	・地図帳で使用されている主な地図記号

(2) 4 学年社会科学習年間指導計画（表2）及び地図帳学習指導計画提案（表3）

本校4 学年の社会科学習年間指導計画を再編成し，地図帳活用を組み入れた単元指導のカリキュラムを提案する。

表2 社会科学習年間指導計画（地図帳活用例）

月	単元名	地図帳活用例（単元名）
4	オリエンテーション ①県名探しをしよう 健康なくらしとまちづくり 1.水はどこから	・地図帳活用のオリエンテーションであり，地図帳に対しての興味・関心を高める。

5	2.ごみはどこへ		
	②地図記号を覚えよう		
6	安全な暮らしとまちづくり		
	1.交通安全をふせぐ		
	③八方位を使ってみよう		
7			
	④索引を使って地名探しをしよう		
9	2.火事をふせぐ		
10	昔の暮らしとまちづくり		
	1 昔の暮らし		
11	2 産業の恩人・ 儀間真常		
	⑤簡単ものさしで測ってみよう		
12	私たちの県とまちづくり		
1	⑥何の形に見えるかな		
	1 紬の島 久米島町		
	2 地形を生かしたまちづくり		
2	名護市のまちづくり		
	⑦地形図をつくってみよう		
	糸満市のまちづくり		
	3 県の地図をひろげて		
3	空と海で結ばれる沖縄県		

- ・ 3 学年で学習した地図記号から振り返る。
- ・ 社会科見学等で目的地を確認する際、地図帳を活用する。
- ・ 自分の住む市を中心に周りの市町村の位置を表す。
- ・ 索引を活用し、地図帳から地名を探す。
- ・ 琉球と中国、鹿児島県の距離等を簡単ものさしを用いて測り、実際の距離を捉える。
- ・ 疑似法を用い、「県の形」アイデア発表会をするなかで県の地形をとらえ、自分の住む県に親しみを持つ。
- ・ 名護市の地形図から土地の高さに気づく。サツマイモを使った作業活動を通して等高線の意味を捉える。地図帳の色の違い（凡例）が分かる。

表3 地図帳学習指導計画（提案）（7時間扱い）

時	ねらい	主な学習活動	指導の工夫(教材・教具)	評価(方法)
① 4月	「県名探しをしよう」 ・ 地図帳の内容構成が分かる。 ・ 都道府県の名称に関心をもつ。	・ 地図帳から読みとれることについて話し合う。(人口, 特産物土地利用, 交通など) ・ 都道府県名あてクイズをする。	・ 都道府県名当てクイズ ・ 私を忘れないでね ・ コンピューター学習(都道府県早押しゲーム・都道府県パズル)	・ 地図帳の内容構成を理解することができる。 ・ 都道府県の名称に関心をもつことができる。(ワークシート・発言・ふりかえりシート)

② 5月	「地図記号を覚えよう」 ・地図記号の意義を理解し、活用する。	・地図記号の意義について確認する。 ・地図記号の名前を覚える。 ・記号の成り立ちを捉え、記号を書く練習をする。 ・地図帳の県内の様子を地図記号で読みとる。	・フラッシュカード ・地図記号かるた取り合戦 ・お宝をさがそう ・コンピューター学習（地図記号のひみつをみつけよう）	・地図記号の意義を理解し、活用することができる。（レッツチャレンジ・観察・発言・ふりかえりシート）
③ 6月	「八方位を使ってみよう」 ・八方位を理解し、活用する。	・四方位の復習をする。 ・八方位を知り、ゲームをとおして活用する。 ・地図帳の県内の場所を八方位で表す。	・めざせセンターホールを 四方位さいころゲーム 八方位さいころゲーム ・レッツチャレンジ	・八方位を理解し、活用することができる。（レッツチャレンジ・観察・発言・ふりかえりシート）
④ 7月 本時	「さくいんを使って地名探しをしよう」 ・索引を活用し地図帳から地名を探す。	・索引の使い方を知る。 ・チャレンジシートで索引の使い方を練習する。 ・地図帳を使い、ペアやグループで地名当て競争をする。	・列棒、行棒 ・列・行の枠 ・レッツチャレンジ	・索引を活用し地図帳から地名を探すことができる。（レッツチャレンジ・観察・ふりかえりシート）
⑤ 11月	「簡単ものさしではかってみよう」 ・縮尺の概念を理解し、簡単ものさしで距離を測ることができる。	・縮尺の意味と使い方を知る。 ・簡単ものさしを使い、地図帳の2地点を測る。（那覇～鹿児島県、那覇～中国など） ・地図帳で〇〇～〇〇間の距離を求める地図遊びをする。	・簡単ものさし ・レッツチャレンジ	・縮尺の概念を理解し、簡単ものさしで距離を測ることができる。（レッツチャレンジ・観察・ふりかえりシート）
⑥ 12月	「何の形にみえるかな」 ・形を通して都道府県に関心をもつ。	・トレーシングペーパーで県の地図を写し外観をつかむ。 ・都道府県の形に関心を持ち、アイデア発表会をする。	・県の地図 ・トレーシングペーパー ・色画用紙 ・色鉛筆	・形を通して都道府県に関心をもつことができる。（アイデアシート・ふりかえりシート）
⑦ 2月	「地形図をつくってみよう」 ・等高線の概念を理解し、地図から土地の高低の特色をつかむ。	・さつまいもを輪切りにし、切り口（等高線）を画用紙に書く。切ったさつまいもは順に揃え、平面図とさつまいもの山を比較し、等高線の理解を深める。 ・地図帳で県内の土地の高低の特色をみる。	・さつまいも（グループ分） ・包丁 ・画用紙 ・レッツチャレンジ	・等高線の概念を理解し、地図から土地の高低の特色をつかむことができる。（観察・レッツチャレンジ・ふりかえりシート）

(3) 興味・関心をもって意欲的に取り組む学習活動の工夫（4 学年実践）

① 楽しく学習するための教材・教具の工夫例

児童は興味・関心を持つことには主体的に取り組む吸収していく。まず、地図帳に親しむことが重要であり、教材にゲーム（地図記号かるた取り合戦、方位さいころゲーム）やクイズ形式のワークシート、コンピューター学習、列棒・行棒を使った索引活用、県を疑似法でとらえる「何の形」発表会、さつまいもでの等高線学習の作業等を盛り込み、楽しく学べる活動方法を工夫した。以下は、実際の学習で活用した教具の一例である。

例1 「さいころゲーム」での八方位学習

四方位や八方位についての知識や見方を定着させるためには、東、西、南、北の方角や南東、南西、北東、北西といった言葉を図に表して理解させるだけでなく、実際に使うことによってその定着度は格段に高まっていくと考える。よって、方位ゲームを取り入れた。

○用意するもの

- ・ゲームシート「めざせ！センターホールを」（図2）
- ・10面体さいころ（低学年教師用の大型さいころを使用）各面には、東・西・南・北、南東、南西、北東、北西、ラッキー、ストップが書かれている。（図3）

○ルール

- ・ペアまたはグループで競う。
- ・各コーナーにそれぞれ基地を構え、そこから中央にある「センターホール」に早く到着した方が勝ち。
- ・順にさいころをふり、出た方角に1つずつ進む。ラッキーは好きな方角へストップは進むことができない。地図からはみ出る場合はその場に止まる。

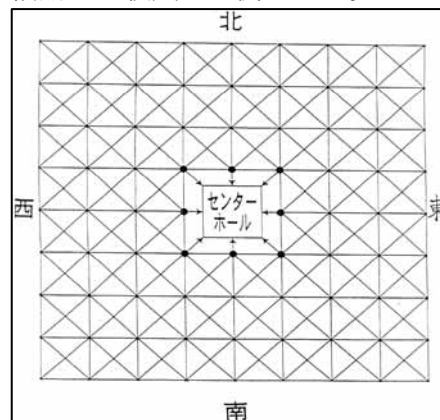


図2 ゲームシート



図3 八方位さいころ

例2 「列棒・行棒」を使った索引活用学習

索引を使って地名探しをする際に、児童が当初戸惑うのは細かい地図の中から列と行を捉えることである。そこで、列と行を捉えやすくする工夫として列棒と行棒を作成し活用する。列棒と行棒が交わった部分に探したい地名があるので探すことが容易になる。

また、索引活用指導の資料として大型の列棒・行棒さらに緯線・経線棒を作成した。（図4）



図4 列棒・行棒，緯線・経線棒

例3 「さつまいも」を使った等高線学習

等高線図は、平面から立体を想起する必要があるのですが、児童にとって高さ等の視点がつかみにくい。この問題点を解決する手立てとして「さつまいも」を用いて行う。児童がさつまいもを輪切りにし、切り口すなわち等高線を画用紙に描く方法である。このアイデ

アの利点は、さつまいもが高い山のイメージを与え得るので児童が実感的に捉え得ること、短時間で簡単にできること、描いた等高線とさつまいもの山を比較できることである。

作業の手順

- ① 画用紙とさつまいもに東西、南北を表す十字を引く。切ったさつまいもを画用紙に置くときに向きを揃えるためである。図が不正確になることが避けられる。
- ② 半分に切ったさつまいもの切り口を画用紙の上になぞる。切り口から約1cm間隔で切ることを繰り返し、画用紙に等高線を描くことを繰り返す。
- ③ 切り口が下から描かれていくことと、高くなるにしたがってさつまいもの断面つまり等高線の囲みが小さくなることに気づかせる。
- ④ 切ったさつまいもは順に揃え、さつまいもの山を復元しておくこと、描いた平面図とさつまいもの山とを比較でき、理解しやすくなる。

② 基礎的・基本的事項の定着を図るためのワークシートの工夫

地図帳に親しみ、楽しく学ぶための学習活動を工夫した一方で、地図帳活用の基礎的・基本的事項についてはワークシートを作成・活用し、記述、思考することでその定着を図った。毎時間、ワークシート（図5）とふりかえりシート（別紙資料）を活用した。

地図帳ワークシート 7月使用
4年3組()

今日の学習のめあて
さくいんを使って地名探しをしよう

今日の学習から学んだこと

今日の学習における基礎的・基本的事項を記述させる。
(板書)

こおりやま	郡山(福島)	さくいん番号	ページ
地名	都道府県		

レッツチャレンジ
次の地名をさくいんで調べ、都道府県名、さくいん番号を書きましょう。
調べたら地図帳で探しましょう。
(探したら地名を赤ペンでかこんでね)
都道府県名 さくいん番号
例題・・・こおりやま 郡山(福島) (35 オ 3)

①のびりべつ	豊別	()	()
②せんだい	仙台	()	()
③		()	()

図5 ワークシート

ワークシートの「めあて」や「学習から学んだこと」には、本時の学習におけるねらいや基礎的・基本的重要事項を記述する。「レッツチャレンジ」とは、学習した内容が実際の地図帳にて活用できるのかを試すものであり、今日の学習が理解できたかをみるといういわば自己評価にあたるものである。

また、終末には「ふりかえりシート」を書く。これは「今日の学習で学んだこと、自分ができるようになったこと、まだできていないこと」などを確認するためのシートである。1枚のシートに年間全7時間分を入れてあり、児童にとって学習の流れが把握しやすい。児童の記入後に教師が子どもの学習状況を把握し、頑張りを褒めることや励ましのコメントを書き込むなど支援する。

児童が自己点検し、教師の支援から新たな課題を見据えさせた上で次時の学習のやる気へとつなげていきたい。

VI 授業実践

1 単元名 地図帳の見方・使い方

2 単元目標

地図帳に掲載されている地図を使って様々な遊びや活動を工夫し、地図について興味・関心を深めるとともに、目次や索引、凡例や地図記号、距離など地図を活用するための知識や技能を身につけることができるようにする。

3 本時の学習

(1) 目標

- ・地図帳活用の基礎的・基本的事項である索引を活用し、地図帳から地名を探す。

(2) 本時における具体的な手立て

- ・索引を使うよさを伝え、使い方を丁寧に指導することで索引活用の技能を身につける。
- ・ペアでの作業，個人でのレッツチャレンジ，グループでの地名当て競争とゲーム的素材を取り入れることで楽しみながら学習に取り組み，索引活用の技能を身につける。

(3) 本時の展開（4／7）

	学習活動・主な発問	資料・準備	教師の支援
導入	1 前時までの学習を振り返る。 ・2，3の県名探しをする。	・日本地図掛図	・全員で県の位置を確認する。
展開	2 地名探しをする。 ・例として「郡山」をあげる。 ・探した方法を発表する。 3 本時の学習のめあてを確認する。 さくいんを使って地名探しをしよう 4 索引を使って地名を探す方法を確認する。 ・正確に早く地名を探すことのできる「索引」を使うよさを伝える。 5 ペアで地名探しをする。 6 一人で地名探しをする。 7 グループで地名当て競争をする。	・掲示用資料 ・掲示用資料 ・ワークシート ・地図 ・掲示用の列棒・行棒，列・行の枠 ・レッツチャレンジ	・児童がどのような方法で探しているのか観察する。 ・索引を使って調べている児童がいたら取り上げる。 ・本時における基礎的・基本的事項は板書し，児童にワークシートへ書く時間を設ける。 ・索引の配列（地名，都道府県名，ページ，列，行）を丁寧に確認する。 ・列棒，行棒を使って探させる。 ・机間指導を丁寧に行い，索引の理解が十分でない児童には個別に指導する。
終末	8 本時のまとめをする。 ・今日分かったことや感想を発表させる。 9 次時の学習の予告をする。	・ふりかえりシート	・これまでの学習のまとめをし，次時の学習への意欲付けをする。 ・索引を活用し，地名を探すことができる。（レッツチャレンジ・観察・ふりかえりシート）

(4) 評価

地図帳活用の基礎的・基本的事項である索引を活用し，地図帳から地名を探すことができる。

VII 結果と考察

検証1

児童が興味・関心を持つ学習活動の工夫をすれば，地図帳に親しみ，意欲的に学習に取り組むであろう。

【結果】本単元の各時間に，児童が楽しく学習活動ができるようなゲーム（地図記号かるた取り合戦，方位さいころゲーム）やクイズ形式のワークシート，コンピューター学習，県を疑似法でとらえる「何の形」発表会，さつまいもでの等高線学習の作業などを取り入れた内容を盛り込み，指導の工夫をした。児童の学習の様子と感想，事前・事後のアンケートから検証する。

みんなで地図記号かる
たをして遊んだら記号
をたくさん覚えたよ。



前は東と西をよく間違えてい
たけど，さいころゲームをし
たら八方位まで分かったよ。



地図帳を勉強するのは好きですか

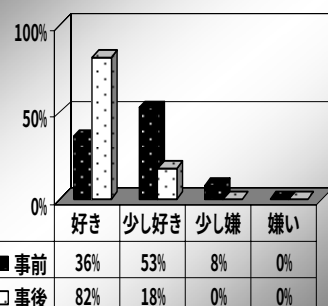


写真 地図記号かるた取り合戦・八方位さいころゲーム学習の様子 図6 地図帳学習に関する意識調査

【考察】

例として，八方位学習における児童の活動の様子から次のようなことが分かった。事前のレディネステストによると，方位の正答率は41%と思わしくなく，誤答の多くは東と西の捉えちがいであった。方位は自ら繰り返し活用することで身につくものと考え，さいころゲームを試みた。八方位等を貼り付けた10面体のさいころを転がし，出た方位でゲームシートを1マスずつ進めていく。児童は，次に出るさいころの方位に一喜一憂し，楽しく取り組んでいた。さらに，ペアでの勝負ゲームなので互いの進路つまり八方位が正確かどうかを確認していく中で，方位の認識が少しずつ身についてきたようだった。

また，授業後における児童の感想には「最初は地図帳学習が嫌いだったのに，いろいろなゲームをして勉強する内に楽しくて大好きになった」「かるた取り合戦でチャンピオンになって嬉しかった」「家族で地図帳ゲームをやりたい」等の声が多くあり，児童が毎回の地図帳学習に意欲的に取り組んでいることが分かる。

図6は，児童の地図帳に対する学習意欲を調査した内容だが，地図帳学習を「好き」と答えた児童が36%から82%へと大幅に増加し，興味・関心が高まった。

これらのことから，学習活動の中に児童がより興味関心を持つ内容を取り入れ工夫したことで，児童は地図帳に親しみ，意欲的に学習に取り組んだものと捉えられる。

検証2

地図帳を読みとる力がつくための教材・教具の工夫をすれば，地図帳活用の基礎的・基本的事項が身につくであろう。

【結果】

地図帳活用の基礎的・基本的事項の一つである索引活用は、細かい地図の中から小さな地名等を探すこともあり、児童にとって捉えにくい。そこで、索引の列と行を捉えやすくする列棒と行棒を作成・活用することで工夫を図った。児童の学習の様子と授業後の感想から検証する。



列棒と行棒を動かしたら、重なったところに探していた地名があったよ。すごいなあ。

索引って暗号みたいで楽しいなあ。もっといろいろ調べてみたいな。

写真 列棒・行棒を活用しての索引学習

【考察】

児童の学習活動の様子から下記のことが分かった。例えば、索引（16ウ8）を探す場合である。ページ16は容易に探すことができたが、ウ8となると、細かい地図上で小さな列と行を表す記号を探すことには慣れない様子であった。右手と左手の双方の指を使い交差させるのだが、動かしているうちにずれてしまうことが多い。ここで、列棒と行棒を活用させた。列棒を固定し、その上に行棒を置くことでずれることが少ない。二つの棒が交わった部分に探したい地名があるので、地点が視覚的にはっきりと見やすく、探しやすくなったようである。

授業後の児童の感想から「列棒と行棒を使ったらとても分かりやすくなった」「列棒と行棒で簡単に見つけられて嬉しかった」などが多くあった。また、ふりかえりシートでは「今日の学習は分かりましたか」の問いに100%の児童が「よく分かった」と答えている。

これらのことから、索引活用における列棒・行棒の教具の活用はより効果的であったと捉えられ、児童の地図帳活用の基礎的・基本的事項の学習内容が定着しつつあるといえる。

検証3

地図帳に触れさせる機会を多く持つようにすれば、地図帳に慣れ親しみ、生活の中でも地図帳を活用するようになるだろう

【結果】

児童が日常生活においても地図帳を活用していくよう学習において地図帳に多く触れさせてきた。児童のふりかえりシート、生活日記、地図帳活用の意識調査から検証する。

「県名探しをしよう」		・県名さがした。地図帳をたくさんさかして見つけたら、とてもうれしくて、気持ちかすとした。 ・都道府県のことかよくわかって、勉強になった。 ・47も都道府県があったなんて、知らなかったからびっくりした。
「地図記号をおぼえよう」		・駅は工場みたいだね。何かな？ ・地図記号は、わからないものかたくさんあって、勉強になっておもしろかった。
「八方位を使ってみよう」		・八方位を使うと、細かいところまで、とてもよくわかったし、どこにどんな島があるかこまかくわかったの。とても勉強になった。
「さくいんを使って地名探しをしよう」		・さくいんはとてもかんたんによめ名をさがせてべんりだなと思いました。 ・これからはさくいんを使っても、とはやくさがせるようにしたい。

図7

A児童のふりかえりシート一部

地図の勉強はこんなに役に立つんだなと思ったことがあります。
ある日、家族とドライブでひめゆりの塔に行こうとしたとき、道に迷ってしまいました。私が「ひめゆりの塔は那覇から南の方位だよ。」と教えてあげました。こんなところでも地図の勉強がとっても役に立ちました。

図8 B児童のメモ日記の一部

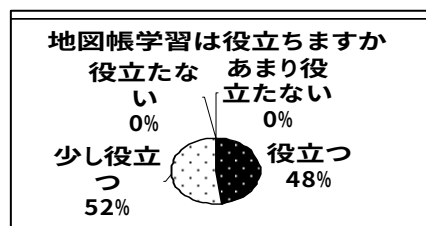


図9 生活における地図帳活用の意識調査

【考察】

本研究のめざす子ども像は「地図を生活の中で生かせる子」である。地図帳は社会科学習だけでなく、児童の今後の生活にも生かせる知識と技能であると捉えているからである。

地図帳を生活の場でも活用するには、やはり学習の中で地図帳に多く触れさせる機会を持つことが重要であると考え、年間を通しての地図帳活用指導計画を提案した。図7は児童のふりかえりシートの一部である。授業後における児童の感想からは、「地図の探し方がよく分かったので、道に迷ってももう大丈夫だと思う」「旅行に行ったときには地図帳を使っていきたい」などの声が多く出ていた。また図8のB児童のメモ日記からは、生活の一場面のやりとりの中において地図帳で学習した「方位」の内容が十分に生かされていることが分かる。

さらに、図9の児童の日常生活における地図帳活用の意識調査では、「地図帳学習は生活の中で役に立ちますか」との問いに児童全員が「役立つ」と答えており、今後の日常生活のあらゆる場面における地図帳の活用が期待される。

今後は他教科・領域等と横断的・総合的関連を図りながら、継続して地図帳を活用する指導・改善を進めていきたい。

Ⅶ 成果と課題

1 成果

- (1) 児童が興味・関心を持つ学習活動を工夫したことで、地図帳に慣れ親しみ、楽しんで意欲的に学習させることができた。
- (2) 教材・教具を工夫したことで、地図帳学習における基礎的・基本的事項を身につけさせることができた。
- (3) 4学年社会科年間指導計画の再編成にあたり、3・5学年との関連を図りながら地図帳活用の帯単元指導のカリキュラムを作成できた。

2 課題

- (1) 地図帳活用の年間を通した、帯単元指導のカリキュラム提案の検証
- (2) 他教科・領域における地図帳活用の工夫

《主な参考文献並びに引用文献》

「地図でつける基本学力」	北 俊夫編	明治図書	2003
「社会科の基礎・基本 地図の学力」	寺本 潔	明治図書	2002
「小学校学習指導要領解説 社会編」	文部省		1999
「地図学習の教材とアイデア」	溝上 泰他	明治図書	1996
「楽しい地図指導のヒント」	中野重人	明治図書	1990
研究紀要 第43集	滋賀県総合教育センター		2000